

目には青葉、山ホトトギス、初鯉、そんな初夏のころとなつてまいりました。毎度格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。

季節のご挨拶かたがたダイレクトメール夏号をお届け申し上げます。

天皇の守護神になると宣言し、今上天皇や徳仁皇太子に警告を突きつけて、救世救国に奔走する私播磨屋助次郎を、皆様どうお思いでございますか。

——ここで言う皆様とは、世人全般のことではなく、人生を真面目に一生懸命生きる、敬愛するべき顧客や同胞たち一人一人のことである。

まさかとは存じますが、ひよっとして、ある種のヒーローやスターのように思つてはおられませんでしょうか。

「凄いなあ」「大したものだなあ」「あんな生き方が出来たら、さぞかし気持ちがいいだろうなあ」などとお思いではございませんでしょうか。

正直に申し上げます。実際は、まるで全然全く正反対なのでございます。

とてつもなく大きな孤独感と焦燥感に、今にも押し潰されそうになりながら、必死で踏ん張り続けているというのが、偽らざる実情であるのでございます。

そしてまた、天皇を「神（覚者）」に戻しさえすれば何とかかなるといふ直感的信念だけが、そんな私を支えてくれる唯一の希望の光なのでございます。

皆様、これでもまだ私播磨屋助次郎を、ヒーローやスターと思われませんか。文字通り孤軍奮闘中の私の胸中、お察し下さいますなら幸甚でございます。

ともあれ、またいつものように夏のご用をおうかがい申し上げます。おすすめは「野の花玉手箱大小」と「ユーロサマーアソート」でございます。

平成三十年 六月 ささゆり咲くころ

あるじ 播磨屋助次郎 敬白